

平成 21 年 3 月 29 日

事前意見集

防災ボランティア活動検討会 事務局
(株式会社ダイナックス都市環境研究所)

※五十音順

財団法人日本YWCA／財団法人市民防災研究所 池上三喜子氏

防災ボランティアの先生は、被災地であり、被災なされた方々であることを常に念頭に入れておかなければと思っています。

阪神高齢者・障害者支援ネットワーク 黒田裕子氏

①検討会の今後のイメージについて

これまでの検証と共に、最初の目標と今後の目標設定をどこにおいているのかが知りたい。私見としては一般ボランティア、専門ボランティア（医療、福祉、建築等）のチームとしての活動のあり方について深める（人間が対象だから）。

②分科会について

欠席者においても分科会に席をおくようにしていただきたい。そして、各分科会は1年間の目標設定をおこない、行動計画を立案されているのでしょうか。私は「人材育成」に加入させて下さい。（今後、教育計画を立案されたならば送って下さい）

③分科会論点イメージの文言について

「被災地との関わり」の4項目目、復興も視野に入れた、【人間不在にならない】災害ボランティアセンターのデザイン・設置・運動。（【 】の言葉を追加してほしい）

④協働の対象の意味は共有できているのでしょうか。

⑤午後の会議について

年間計画の立案をお願いします。これまでも実施されているためいきあたりでした、計画的に行動することが真の検討相になるのではないのでしょうか。公金をいかしていくようにしましょう。

N e r i m a - s a i g a i . n e t 高橋洋氏

みなさんの思いが強すぎて、過熱気味の議論になります。今後の「大災害（東海とか首都圏）」に向けての長い準備活動だと、みなさまが考えてくれると良いのですが。

個々の被災者を支援することは丁寧に行う必要がありますし、わずかな取り組みですが、そのようにしてきました。しかしながら、阪神からの一連の流れは、今後に備えた教訓であろうと思っています。そして、その教訓を生かしきるためにこそ、この会はあるのでしょうか。

私は、少なくとも、そのように考えています。

特定非営利活動法人みえ防災市民会議 山本康史氏

「被災地との関わり」分科会の課題のひとつとして上がっている「ボランティアバス」については、2004年に三重で発行した「みえ発！災害ボラパック」でかなり詳細に取り上げることができていると思っています。

後は神奈川の秦さんのところの知見を加えれば、それなりのものになるのでは？

NPO法人防災ネットワークうべ 弘中秀治氏

これまでの検討会（1～8）の内容をワンペーパーに概要としてまとめてほしい。

私自身全部出席できていないため、自分でも整理しきれていない。本来各自がすべきことだが、情報共有の意味で、簡単なものがあってもよいのではないか。また、今までの流れを整理した上での今後の方向性も見えやすくなるのではないか。こういうものがあれば、代理出席者も議論に参加しやすい。

関連して、分科会のこれまでの流れも整理できないか。分科会そのものは、継続している内容が多いと考えるが、今までの成果と継続している課題の整理をワンペーパーに。

私の記憶にはないが、もしも存続していない分科会があれば、それは、完了したのか、統廃合されたのかまで示してほしい。

少し気になるのは、目先のことに注意が行って、忘れているだけのことがないか確認したい。心当たりがあるわけではないので、無ければそれでよい。

「被災地の関わり」について、イメージにあげられている内容は、「ボラセンそのものの設置判断・運営体制等」の課題と「地方自治体・地縁組織などの地域との関わり」の課題とがあるため、分けた方がよいのではないか。

「被災地との関わり」との言葉からは、後者だけのイメージを持った。

【その他】にある「災害ボラセンの財政に関し課題が存在」と「活動資金の確保に関する制度の裏打ち」は、上記の前者に整理できるのではないか。

また前者では、「災害ボラセンの設置判断基準の目安は何か」それぞれ違うと思うが、それを整理したい。特に、被災経験がない地域は、何を根拠に判断したらよいかわからない。

人材育成について、各地域や社協、ボランティア団体ごとに取り組まれていると思うが、養成研修等の内容について基本となる教科書や教材の共有及び基本的事項（科目）の整理などできないか。

また、もし災害ボランティアを育成していない地域があれば、そういう地域への啓発・支援も必要ではないか。